

鉄道工事殉難碑訪れ

旧銀河線の
沿線ツアー
森林鉄道跡も見学

旧ふるさと

銀河線の鉄道遺産を巡り、沿線のまちを応援するバスツアーの一行が十二日、置戸を訪れ、北光の鉄道工事殉難碑や森林鉄道の軌道跡を見学した。

この旅は北見の市民団体ふるさと銀河線沿線応援ネットワーク

(小川清人代表)が企画したもので、道内外の三十人が参加した。

十一日に北見市内の旧ちほく高原鉄道の検修庫やS1公園などを見学し、十二日は訓子府の無農薬栽培農家による採れたて朝市で朝食をとり、常盤の菅野養蜂所で蜜ろうキャンダルづく



りをした後、置戸へ。

鉄道工事の殉難碑前では町社協事務局長の神宮竜太郎さんが説明役を務め、銀河線の前身、網走本線開削当時の様子を話した。写真のあと一行は春日の森林鉄道軌道跡を訪れ、同鉄道で働いていた佐々木信一さんから往事の木材搬出の話聞き、朽ちたコンク

リートの橋脚を見学した。翌十三日、ツアーの参加者は列車を動態保存している陸別の「りくべつ鉄道」

で乗車、運転を体験した。同日午後には再び置戸を訪れ、森林工芸館でみやげを買、帰途についた。